

地域で活躍するシニア世代



敬老会

9/3 総合体育館

9/16の敬老の日に合わせて、
キラリと輝く高齢者をご紹介します！

長年にわたり、地域の発展を支えた皆様への敬意と感謝の気持ちを表す「敬老会」が9月3日、町総合体育館で開催されました。出席者たちはアトラクションや世間話を楽しみながら有意義な時間を過ごし、折り詰め料理を持ち帰りました。

対象者814人を招待

今年、町内に住む75歳以上の814人（男性318人、女性496人）を敬老会にご招待しました。

このうち、大正15年（1926年）に生まれた白寿の方は7人、昭和12年（1937年）に生まれた米寿の方は35人が該当しました。

当日の出席者は258人で、白寿と米寿の私たちは胸に白いリボンを付けて式典会場に入場しました。

太鼓演奏、遊戯で祝福

式典では、主催者の田中一典町長が「人生100歳時代と言われる中、皆様が安心して暮らせる住みよいまちづくりを進めていきます」とあいさつ。町議会の廣田毅議長、社会福祉協議会の中易猛会長がお祝いの言葉を述べました。続いて、「もせうしこがね太鼓」が勇壮な太鼓演奏、認定こども園妹背牛保育所の園児がかわいらしい遊戯を披露し、出席者を楽しませました。

祝

めでたく白寿を迎えた武田スエノさんは、赤いバラ柄の衣服に身を包んで式典会場に入場。今も外出時は歩いて移動するといい、健康の秘訣について「好き嫌いなくよく食べて、よく寝て、よく遊ぶこと」と、笑顔で話します。

武田さんと、同じテーブルの席に座った田村ヒロ子さんはご近所さん同士。米寿を迎え、この日が誕生日という田村さんはお祝い事が重なり、周囲から祝福を受けました。



白寿を迎えた武田さん（左）と米寿の田村さん

祝状を持つ大井よみ子さん



祝福を受けると、2人の顔から笑みがこぼれました。高見さん宅では、長男の一やさんも交えて、記念写真を撮影。健康の秘訣について、露子さんは「食べることが好きですね」と話しました。一方、大井さん宅で、記念品を受け取ったよみ子さんは「こんなに立派なものをいただけ、とてもありがたいです」と、感謝の言葉を述べました。

笑顔の高見露子さんと長男の一やさん



100歳の長寿者を祝う記念行事が9月12日に行われました。妹背牛町内の対象者は5人。このうち在宅の2人は、田中一典町長がそれぞれのご自宅を訪問し、内閣総理大臣名義の祝状と記念品の銀杯を届けました。自宅を出迎えたのは、ともに1924年（大正13年）生まれの高見露子さんと大井よみさんの2人。田中町長から「いつまでもお元気で」と



かかし大会に

初めて参加



妹背牛町老人クラブ連合会は、10月5日に中心市街地で開かれる「第16回創作かかし大会」に初めて参加します。メンバー同士が気軽に集まれる機会をつくり、地域のイベントを盛り上げようと、三役6人がかかし作りに挑戦。開催日を1カ月後に控えた9月6日、会長・中易猛さん宅の倉庫で作業を始めました。制作するかかしは、役員

で話し合い、ある人気アニメのキャラクターに決定。役員たちは親戚の漁師から浮き玉を譲り受けるなど、各家庭から持ち寄った廃材を活用して、かかしの土台を作りました。元農家の男性は、電動工具の扱いにも慣れた様子。顔に見立てた浮き玉に、目や口などのパーツが付けられていきます。表情豊かなかかしの正体は、当日の会場でお楽しみください。

詩吟の世界に

魅せられて



深川吟詠会妹背牛道場の北井欣一さんは、詩吟を続けて45年の師範(総伝)です。当時、内気な性格だったという北井さんは、人前で喋ったり、張りのある声を出せるようになるため、町役場の現役職員だった1979年（昭和54年）に道場の門を叩きました。詩吟は、和歌や漢詩などを独特の節回しで吟ずる日本の伝統芸能。北井さんは、その時代背景や情景、作者

の想いを解釈し、声の強弱や音域を独自に表現する詩吟の奥深さにのめり込みました。会員たちから「先生」と呼ばれることを恥ずかしがる北井さんは「詩を作った人の気持ち表現することは難しいですね」と、師範になった今もひたむきな姿勢で研さんに励みます。北井さんは妻・純子さんの名前を使った「岳純」の雅号で活躍中です。

働く喜びを実感!!



＝ 高齢者事業団 ＝

ますだ たけみ
梶田 武美 さん

夏の日差しがまぶしい8月中旬、遊具やパークゴルフの利用者でにぎわう遊水公園「うらら」に草刈り機のエンジン音が響き渡ります。

額に汗を浮かべて草刈りに励むのは、1区の梶田武美さん(77)。農機具メーカーに40年間勤めた経験から、草刈り機や子どもたちが遊ぶバッテリーカーの修理もお手のものです。

定年退職後の1年間は、暇を持て余していたそう。「体を動かす仕事がしたい」と、高齢者事業団に登録して9年が過ぎました。

仕事にやりがい!

サラリーマン時代は会社のため、働いていた梶田さんも、現在は気持ち良く公園を利用してもらうために仕事をこなしています。

「自分で仕事の段取りを決められることが楽しい」と、働く喜びを感じる毎日。パークゴルフ場のコース刈りでは、草の高さ1・8センチを基準に、コースの起伏に合わせて芝の状態を整えていきます。

「いいコースだね」「打ちやすい」などと喜ぶ、パークゴルフ愛好者の温かい言葉を励みに、梶田さんは草刈りを通じて仕事への充実感を得ています。

町民に愛される手作り弁当



わかち愛食堂

NPO法人「わかち愛もせうし」は毎週月曜日、栄養満点の手作り弁当をワンコインで販売しています。野菜をふんだんに使った週替わり弁当は、彩りも鮮やか。「おいしい」「いつも楽しみにしている」とリピーターにも好評で、個人や事業所向けに毎回140、160食分を作っています。

長年の主婦業で料理の腕を磨いてきた女性6人が調理を分担。午前7時から「わかち愛もせうしひろば」の調理室に集まります。約9升分のご飯を炊いて、手際よくおかず4品を作り、容器に盛り付けていくチームワークが光ります。

「わかち愛食堂」を始めて今年の9月で丸10年。チーフの中山由美子さんが中心となって健康に配慮したメニューを考え、最初は定食でしたが、コロナ禍を機にテイクアウトできる弁当に切り替えました。

食材費が高騰しても500円の値段は10年前のまま。10回購入すると1個分の弁当が無料になるスタンプカードも好評です。



陶芸クラブ

陶芸クラブは現在、女性10人が和気あいあいとした雰囲気の中で活動を続けている団体です。「作り直しがいい、おしゃべりを楽しみながら、オリジナルの陶芸作品を作っています。」



悠遊クラブ

悠遊クラブは週に1度、高齢者が町民会館に集まって川柳や健康麻雀を楽しむ団体です。お互いの作品を講評し合い、メンバーの中には同時に川柳を作る「即興詩人」の異名を持つ人もいます。



妹背牛町地域包括支援センター

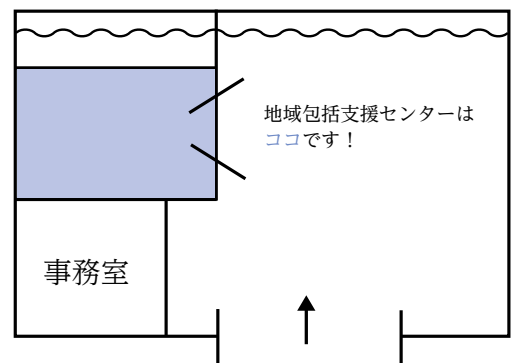
妹背牛町地域包括支援センターでは、介護・健康・福祉・医療・成年後見制度のことや、日常のちょっとした悩み事についても気軽にご相談することができます。

保健師やケアマネジャー、社会福祉士らによる専門チームのサポート体制が充実しており、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための総合的な支援に努めています。

また、認知症への理解を広める活動にも積極的に取り組んでおり、8月21日には「オレンジカフェ 縁」にて「帰宅願望」や「体験の喪失」などの症状を想定した声掛け訓練を実施。参加者たちが相手の尊厳を傷つけない話し方を学びました。



声掛け訓練の様子



妹背牛町地域包括支援センター
(保健センター内)
TEL0164-32-2414